

富士山かぐや姫ミュージアム
Mt.Fuji and Princess Kaguya Museum

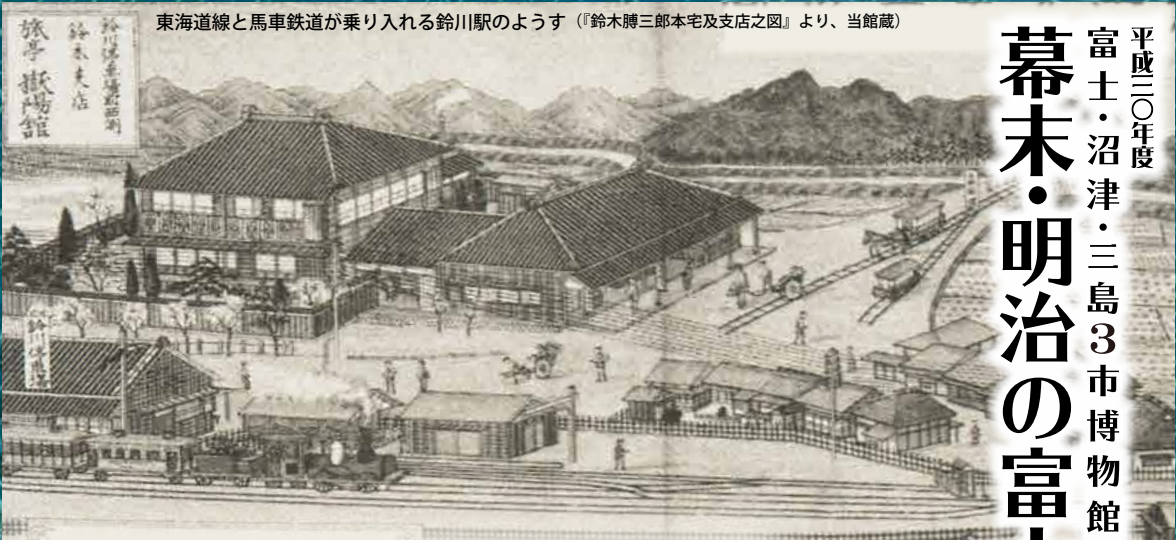
赫夜 —かぐや—

博物館だより

2018
6.30

72号

東海道線と馬車鉄道が乗り入れる鈴川駅の様子（『鈴木博三郎本宅及支店之図』より、当館蔵）



産業のまち
富士の幕開け

7月28日(土)~10月21日(日)

ギャラリートーク(申込不要)

7/29(日)、8/4(土)、8/25(土)、9/8(土)、
9/22(土)、10/14(日)、10/21(日)
11:00 ~、14:00 ~、30分程度

幕末・明治の富士・沼津・三島

平成30年度
富士・沼津・三島3市博物館共同企画展



／リー来航にはじまった幕末の動乱は、武士も町人も百姓もさまざまな形で巻き込んでいきました。特に東海道沿い・駿河湾沿岸である富士・沼津・三島には、たくさんの人がさまざまな目的で行き交いました。ある人は国書を携え通商をもとめて、ある人は長州征伐の総大将として、ある人は朝敵となった徳川氏を攻めるために、この地に至るのでした。歴史の表舞台で活躍した人物に翻弄されながらも、この地域の人びとはこの動乱の時代を生き抜きました。

そして明治時代を迎えると、富士・沼津・三島の人びとが地域の近代化のために活躍するようになります。諸外国との交易に対応した産業、原材料や製品を

運ぶための交通網の整備、地域の将来を担う人材育成のための教育。自らの才覚を地域の発展のために発揮する時代となりました。その成果がいまの富士・沼津・三島をかたち作るのでした。

富士・沼津・三島三市博物館連絡協議会では、三市の博物館が連携して企画展示を開催します。平成30年度は明治維新150周年を記念して、幕末から明治期にかけての富士・沼津・三島のような様子をご紹介します。富士会場では、いまの「産業のまち 富士」をかたち作った製紙業をはじめとした諸産業が、幕末・明治期にどのように近代化していったのかを中心に紹介します。

(杉本 寛郎)



富士山世界遺産登録5周年記念展

かぐや姫の里と白隠さん

—無量禅寺再興に尽力した人々の事跡を訪ねて—

平成30年11月3日（土祝）～12月9日（日）

本市比奈の竹採公園内には神機独妙禅師と刻まれた墓塔を中心に僧侶の墓塔が数基ほど並んでおります。神機独妙禅師は「駿河には過ぎたるものが二つあり、富士のお山に原の白隠」と謳われ、500年に一人の名僧とも称される、白隠禅師の諡号で、実は、禅師と竹採塚には深い繋がりがあります。

さて、白隠禅師は貞享2年12月25日（1686年1月19日）、東海道原宿（現沼津市原）の長沢家の三男として生まれ、15歳の時に郷里・原宿の松蔭寺住職・単嶺祖伝から、慧鶴の名をいただき、得度します。

その後、諸国を行脚し、信濃国飯山の道鏡慧端正受老人の法を継ぎ、32歳の時、請われて松蔭寺に戻り、翌年から凡そ50年間に亘り松蔭寺の住職を務め、明和5年12月11日（1769年1月18日）84歳（満82歳）で遷化されました。その間、禅師は考案禅の体系を確立するとともに、厳しい修行の下、傑出した多くの弟子を輩出し、衰退していた臨済宗を立て直したことから、臨済宗中興の祖として現在も仰がれております。禅師は、その教えを広めるため、各地で講義を行うとともに、一万点以上はあろうかとされる膨大な書画や、多数の著作物を遺しております。



白隠禅師墓塔（比奈・竹採塚）

一方、白隠禅師は稀代の名僧でありながら、公権力に屈せず、大寺院の住職にも就かず、駿河国原宿の片田舎であった松蔭寺を拠点に民衆徳化に努め、自らも悟後の修行を励行し清貧を貫き生涯を終えております。そのようなことから、池大雅をはじめとした文化人や、女性の参禅者も多く、大名から一般民衆まで、貴賤や宗派に関係なく、禅師の教えに帰依する人々が数多いたといわれており、没後には、後桜町天皇より神機独妙禅師の諡号を、明治天皇からは正宗国師の諡号を賜っております。

本市の比奈には、白隠禅師が中心となり、何人もの弟子達を始め、地元の在家信者や篤志家の援助により復興された神護山（神興山）雲門無量（寿）禅寺が明治初年までございました。現在は、竹採公園として整備されておりますが、竹採塚はかぐや姫誕生の地として、地元では古くから知られている旧跡でもあります。白隠禅師は、無量禅寺を再興するにあたり、禅師が著作した『荊叢毒藥』の中の「無量寿禅寺草創の記」の項で、この地はかぐや姫誕生の地であり、竹取翁が住んでいた所でもあり、この地こそが富士浅間大士（浅間大菩薩と同義、本地は大日如来）の本迹・不二の霊場でもありとし、人間世界の中の最も優れた日本一の聖地であると説いております。禅師は、かぐや姫自身が芙蓉（富士山）の洞穴に入り、浅間大士となったとしており、竹取翁は愛鷹明神であり、嬭は犬飼明神にあたるとしています。禅師は示寂後火葬され、遺骨は松蔭寺と三島の龍澤寺に加え、ここ無量禅寺の3箇所に分骨・埋納されました。このことから、禅師の無量禅寺に対する並々ならぬ思いの一端が伝わってまいります。

そこで、この展示会では、①白隠禅師は、なぜ富士山の女神であったかぐや姫の誕生の地・竹採塚に無量禅寺を再建したのか？ ②再建された無量禅寺はどのようなお寺であったのか？ ③なぜ、白隠禅師のお墓が無量禅寺にあるのか？ 以上の3点について、白隠禅師や無量禅寺の再興に携わった方々の残した資料により概観してまいります。（館長：木ノ内義昭）

関連イベント

■講演会：平成30年11月4日（日）※午前
富士山かぐや姫ミュージアム

■現地見学：平成30年11月4日（日）※午後
吉永～原田地区フィールドワーク

※日程・内容については変更となる場合があります。



富士市・富士川町合併10周年記念事業

道具が語る あの日の住まい

—富士のふもとのヒトとモノ—

平成30年12月22日（土）～平成31年3月10日（日）

みなさんは、ちょっと前まで使っていた道具を最近目にすることがなくなって、時間の経過を感じたことはありませんか。例えば携帯電話。今では「スマホ」が主流ですが、数年前までは「ガラケー」を使っていたよね。このように、普段わたしたちが何気なく使っている道具の多くは、日々変化する生活スタイルや技術の進化に合わせ、便利で使いやすいように改良されていきます。こうした道具が集まることで、“今”の生活風景が形作られています。つまり、生活の道具とは、その時代を表す象徴であり、その時代のヒトの暮らしぶりを浮かび上がらせてくれる存在なのです。

この展示会では、ここ富士のふもとで集められたモノを中心に、当館所蔵の様々な生活道具を紹介していきます。特に、今回は住まいの道具にスポットを当て、少し前のヒトの暮らしがどんなものだったのか見ていきます。大人にとっては懐かしいものでも、子どもにとっては目新しいかもしれません。そんな道具の数々をご覧ください、今と昔の違いや共通点を探してみたり、自分たちが生きてきた時代を思い返すきっかけになれば幸いです。

いろりばた 囲炉裏端で団らんする時代の道具たち

昭和の初めごろまでは、昔ながらの囲炉裏のある民家で暮らす家がたくさんありました。かまどでごはんを作って囲炉裏を囲んで家族が団らんする生活は、体験したことのない世代の人でもどこか懐かしく感じてしまうあたたかい光景です。ここではそんな時代の囲炉裏端や土間まわりの道具を中心に紹介します。

チャノマでくつろぐ時代の道具

昭和の中ごろは、お茶の間で家族がくつろぐのが定番でした。サザエさんでもおなじみの風景ですね。戦後から経済成長を続けていくなかで、いわゆる家電の「三種の神器」や電話機など様々な道具が家庭に普及していった時代です。ここでは生活スタイルの変化を感じさせる道具を中心に紹介します。（秋山 裕貴）



黒電話（当館蔵）



昭和初期の一般的な民家の暮らし（画 外立ますみ）



イベント・体験講座のご案内

各種イベント・体験講座案内

◆ 富士川民俗資料館(稲葉家住宅)での体験講座

平成30年春にリニューアルオープンしたばかりの富士川民俗資料館(稲葉家住宅)で、富士川地区にちなんだ体験講座を開催します。

日 時 7月21日(土) 10:00～15:00

内 容 手漉き和紙ハガキ作り (50円)、富士山折紙ぼうし作り (無料) など

定 員 特になし。だれでも体験できます。

申込み 不要。直接お越しください。(富士市岩淵8-1)

◆ 富士の型染体験

富士の伝統工芸「型染」でコースターに挑戦!!

日 時 8月4日(土) 9:30～12:30

定 員 小学生～一般 先着20名

※小学4年生以下は保護者同伴

申 込 7月21日(土)～電話又は直接来館

体験料 1人1,000円

◆ 戦時中の料理

食事を通して戦時中の生活を考えてみよう。

日 時 8月9日(木)10:00～13:00

定 員 小学3年生以上 先着10名

申 込 7月29日(日)～電話又は直接来館

体験料 1人200円

◆ 博物館陶芸教室—自由に作って、陶芸に親しめる—

創り出す喜びそれを使う楽しみ。この機会にぜひ!

・初心者コース(事前申込)※講師の指導あり

・中級者コース(申込不要)※講師の指導なし

日 時 8月12日(日)、9月9日(日)、10月14日(日)、
11月11日(日)、1月13日(日)、2月10日(日)、3月10日(日)

初心者 9:30～11:30 (9:20までに集合)

中級者 9:30～16:00 (9:00～14:00まで受付可)

定 員 各コース 先着15名

申 込 電話又は直接来館、開催日前週の土曜

9:00～ ※申込は初心者コースのみ

体験料 粘土1kgにつき1,000円(初心者は1kgまで)

◆ 農家の食と年中行事

旧稲垣家住宅において、さまざまな年中行事を体験することで、富士山麓に生きてきた人々の暮らしを感じてみませんか?

日時・内容(全10回、①・②は終了)

③ 8月18日(土) そばの種まきとゆで落花生作り

④ 9月15日(土) 里芋の収穫と月見団子作り

⑤ 10月28日(日) そばの収穫とかまどめし

⑥ 11月24日(土) そばの脱穀・製粉と干し芋作り

⑦ 11月25日(日) そばうち

※⑤、⑥、⑦は3回連続での出席が条件です

⑧ 12月23日(日祝) もちつきと注連縄作り

⑨ 1月14日(月祝) 蕪玉作りと小豆粥

⑩ 3月16日(土) 牡丹餅作り

各回とも原則9:00～13:00

定 員 小学生以上、各回先着10名程度

申込み 電話又は直接来館、各回開催日の2週間前の9:00～

体験料 各回1人400円



体験講座「戦時中の料理」のようす

富士山かぐや姫ミュージアム 赫夜-かぐや-

発行年月日 平成30(2018)年6月30日

編集・発行 富士山かぐや姫ミュージアム

Mt.Fuji and Princess Kaguya Museum

印刷 文光堂印刷株式会社

住所・連絡先 〒417-0061 静岡県富士市伝法66-2 TEL.0545-21-3380 FAX.0545-21-3398

HP. <http://museum.city.fuji.shizuoka.jp/> E-mail. museum@div.city.fuji.shizuoka.jp

開館時間 4月～10月 9:00～17:00 11月～3月 9:00～16:30

休館日 月曜日(祝日の場合は開館)、祝日の翌日、7/3～7/6(燻蒸)、12/29～1/3(年末年始)

歴史民俗資料館(分館) 開館時間・休館日は本館に同じ

博物館屋外展示(ふるさと村) 休館日なし すべて観覧無料



ふじかぐちゃん

博物館だより
No.72



タイトルの「赫夜-かぐや-」は、富士山のかぐや姫物語を今日に伝える「富士山大縁起」(当館蔵)に登場する「赫夜姫」からとっています。